

「駅前のにぎわい創出」に向けた提言書を市長に提出

令和7年9月24日、駅前のにぎわい創出に向けた提言書を山野井議長が中村市長に提出しました。

建設経済常任委員会は、取手駅西口に図書館機能を核とした複合公共施設整備を進める市の方針を受け、令和6年から「駅前のにぎわい創出」を重点調査テーマとして調査を開始しました。その一環として、駅前図書館や複合公共施設に力を入れている先進地、具体的には土浦市（アルカス土浦）、兵庫県明石市（パピオスあかし・あかし市民図書館）、新潟県長岡市（アオーレ長岡・ミライエ長岡）、埼玉県さいたま市大宮区（大宮駅周辺施設）、群馬県太田市（太田市美術館・図書館）の施設を視察調査しました。

県外への視察には、それぞれ少人数の委員を派遣し、オンラインで現地とつなぐことによって派遣されなかった委員や先進地の政策に興味のある議員、関係する執行部職員も一緒に説明を受け、質問を行うことで経費を削減しつつ効果的に先進地の視察調査を行いました。

さらに、それらの調査結果を踏まえて、次の3つの事項を提言しました。

- 1 意見公募やアンケートのみならず、市主導の意見交換会やワークショップなどを行い、様々な意見等を聴取し反映させること。
- 2 地元の特色を生かしたランドマークとして魅力あふれる施設にするため、調査研究を進めること。
- 3 子どもから高齢者まで身近に本を感じることができ、人との交流を重視した市民の居場所になるような施設にしていこう。



中村市長に提言書を渡す山野井議長
（左から海東委員長、中村市長、山野井議長、小堤副議長）



図書館機能を核とした複合公共施設のイメージ
（注意）あくまでもイメージであり、今後変更となることがあります。



事業所を視察した福祉厚生常任委員

福祉厚生常任委員会が就労継続支援A型事業所を視察

福祉厚生常任委員会は、9月12日、障がい者支援についての調査のため、「合同会社KUKURU」が運営している市内の就労継続支援A型事業所へ視察調査を行い、利用者の実際の作業風景の見学、さらに利用者や保護者、職員の実情を伺いました。



就労継続支援A型事業所とは・・・一般企業での就労が難しい障がいのある方と雇用契約を結び、働く場と必要な支援を提供する事業所です。

